

令和4年4月25日

4月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では3共販所とも春の特別市開催後も順調な入荷である。製材業者の引き取りは良いが、入荷材が多いため土場での極積場所の確保に苦労している。スギ3m柱材は値を下げているが、スギ4m中目材は横ばいで推移。ヒノキ材は全体的に弱含みで、特に4m中目材が値を大きく下げている。

群馬でも原木入荷は順調。製材工場の原木在庫は潤沢で市場や山土場に未引取材がある。全体的に見積は少ないが、引き合いは好調。土木用材の引き合いが増えている。プレカット工場への納材も順調。製品在庫は下地材、貫、胴縁等が無い。製品価格は高値安定で推移している。土木用材の価格が上昇傾向にある。

2. 米材

産地では原木価格が1月に急騰し、史上最高水準に高騰した後、高原状態の横ばいで推移している。天候による伐採への影響が大きかったカナダでは一部の製材工場が原木不足により工場休止を決定した。BC州内陸部では輸送手段の不足で製材品在庫の過多となり、稼働率を落としている工場も見られる。米国内では伐採は順調である。港頭在庫の積み上げまでには至っていないが、輸出用原木が不足する状況にはなっていない。米マツIS級並の4月対日輸出価格(推定)は、3月中旬からの急激な円安を背景に値上げは見送られ、\$1,350/千SCRになった模様。1月に\$300の分割値上げ方向であったが、\$200の転嫁に止まり、\$100の値上げが積み残されている。米国の製材品市況は上昇が続いていたが、3月中旬より反落し、シカゴ先物価格も大きく値を下げている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(4/5)は\$1,134/Mで3月頭に比べ14.5%の下落。米国内の急激なインフレによる金利上昇が住宅需要の減少を招くという懸念が要因とみられる。

2月原木入荷は153千 m^3 と減少、1~2月累計では340千 m^3 (前年同期比1.7%増)、出荷は180千 m^3 で大きく出超、1~2月累計は339千 m^3 (同7.5%増)、在庫は減少し119千 m^3 、在庫率は0.67ヵ月と1ヵ月割れが継続。東京木材埠頭の3月製品入荷は31千 m^3 (前月比338.0%増)、出荷は19千 m^3 (同6.6%増)、在庫は58千 m^3 (同27.7%増)。住宅建築が構造用合板や什器の不足により抑制されており、国内米材工場の荷動きは落ち着いている。

3. 南洋材

サラワク州では4月に入っても乾期にならず、原木生産は低調である。PNGの北部では3月中旬から天候が回復し、4月中旬には乾期に入ると見られ、原木生産は増加するだろう。サバ州では、日本の商社数社が契約交渉しているが、未だ輸出されていない。林区・伐採グループ別に輸出枠があり、輸出手続きが煩雑な模様。フリー板のマーケットは非常に悪い。中国での新型コロナ感染者の急増対策で生産停止もあり、供給は不安定である。4月予想の原木入荷は11千 m^3 、出荷は6千 m^3 、在庫7千 m^3 。製材品入荷は30千 m^3 。

4. 北洋材

産地側はウクライナ侵攻問題で混乱。日本向け出荷は船会社のBOOKING制限により停滞。BULK船も見つからず、コンテナ輸送を継続せざるを得ない状況であるが、ナホトカ、ポストチヌイ、ウラジオストクでコンテナ船待ちの状況が続いている。大手商社では新規仕入れを一旦見合わせる所もある。アカマツ原板は輸送停滞もあり、契約履行はさらに遅れている。産地側は日本に製品を出荷しても代金を受領できるか不安視しており、商社ではシベリアの各シッパーに対日生産継続の意向を確認中である。なおSWIFT規制の影響は少ない模様。アカマツ現地挽き野縁製品に一時的な仮需が発生し、浮いた流通玉は無くなった。国内製材工場に注文が急増しているが、顧客以外への供給余力は無い。2月の製品入荷(東京+川崎)は18千 m^3 で減少(3月にずれ込み)、出荷は16千 m^3 と入超。在庫は46千 m^3 と増加。4月以降の入荷は大きく減少する可能性がある。

5. 合板

合板用原木の国産材価格は1~2月に大幅な上昇。出材期のため合板工場の在庫は一時期に比べ増加。スギは増加したが、カラマツが引き続き不足。ロシア政府の日本を含む非友好国へ禁輸によりロシア単板の入荷が止まる。フェイス/バックに使用する単板比率を極力減らすため、当面は厚物を中心とした生産が想定される。米材は産地価格の大幅な上昇の影響により輸出向け価格も更なる値上げになる。

2月の国内合板生産量は25.9万 m^3 、うち針葉樹合板は25.4万 m^3 、出荷量は25.2万 m^3 で在庫量は9.3万 m^3 、うち構造用合板の在庫は7.4万 m^3 、在庫率0.3ヵ月とかなりの低水準。ロシア単板の禁輸により国産原木の上昇が予想され、針葉樹合板の価格は4月も値上がりが見込まれる。輸入合板は産地価格の上昇に円安が加わり値上がりが続いている。針葉樹合板の品不足により12mm系の

引き合いは強いが、普通合板の荷動きは鈍い。2月の合板輸入量は主要国の減少で18.9万 m^3 (前月比26.3%減)。特に中国産の減少が大きい。全国の港で倉庫が満杯状態で、またコンテナの輸入増で通関遅れが発生している。インドネシアでは4/1から国境開放になり労働者不足は解消されるが、最低賃金の大幅な上昇により新たなコスト上昇の要因となる。マレーシアの合板工場では2月の生産量が最悪とみられるが、大幅な改善は見られない模様で低位の出荷が継続するだろう。

6. 構造用集成材

ラミナは港での保管が続いている。第2・四半期ラミナの契約量は例年の7割程度となり、現在の港頭在庫分と合わせると直近の供給量に変動はない。コンテナ船の輸送状況は現状維持である。第2・四半期の契約価格は、欧州内の需要増加により $\text{€}100/\text{m}^3$ 程度の値上げとなり $\text{€}570\sim 600/\text{m}^3$ 。現在消費のラミナは昨年第3・四半期契約分の $\text{€}600/\text{m}^3$ を超えるもので、原価は工場着90,000～100,000円/ m^3 。輸入集成材も遅れていたコンテナ船が漸く入港し、2月の輸入量は7.9万 m^3 と1月に続き多い。国内流通価格は145,000円/ m^3 周辺である。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強いが、発生・入荷ともに低調。解体材も同様でタイト感強いが、大手のボイラーの定期修理があるため、集荷に一服感が見られる。製紙用では国産針葉樹チップの増集荷基調は継続しているが、各社のタイト感は解消されない。燃料用は4月以降、大手のボイラーの定期修理あるため、消費量は減少。製紙、バイオマス用ともに原木価格は高止まりの傾向にある。

8. 市売問屋

国産材のスギ、ヒノキのKD構造材は高止まりで、荷動きは悪い。木材使用量の少ない現場では米ツガ・米マツ構造材からヒノキ、スギへの材種変更が見られる、国産材の羽柄材では貫、胴縁が品不足で、しばらく続きそうだ。ロシア材製品は売玉が無く、困惑している問屋が多く見られる。

9. 小売

町場の工務店の中には資材高騰と先行きの入荷予測がつかず、見積も及び腰になっている。分譲系では夏頃までは建て控え、様子見の声が多い。プレカット工場では合板の入荷量に応じた加工工程になっている所が多い。東北材の入荷ペースは落ちていたが、若干回復しつつある。外材は年明け後、入荷量も増加し、落ち着いた状況であったが、ウクライナ紛争によりロシア材、欧州材に再び品薄、高騰の恐れが出ており、仮需が発生している。米材についても為替やフレートの問題もあり、仕入れに苦労している。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和4年4月25日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	↗
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
		10.5×10.5×2.98m	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗